

熊本県地下水と土を育む農業推進県民会議 次第

日 時：令和5年（2023年）1月17日（火）
15時から16時30分まで
場 所：ホテル熊本テルサ たい樹

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）「第2期地下水と土を育む農業の推進に関する計画」の
令和3年度実績及び令和4年度の活動状況について・・・・・・・・・・資料1

（2）各構成団体からの取組み報告

4 閉 会

熊本県地下水と土を育む農業推進県民会議 出席者名簿

1 委員

	構成	所属	役職名	氏名	代理出席者氏名
1	本部長	熊本県	知事	蒲島 郁夫	
2	有識者	NPO法人 くまもと未来ネット	理事	大住 和佑	
3		株式会社 熊本日日新聞社	常務取締役	渡辺 吉孝	
4	消費者団体	特定非営利活動法人 熊本消費者協会	会長	上間 哲	
5	地下水保全実践団体	公益財団法人 くまもと地下水財団	理事長 (熊本市長)	大西 一史	
6		サントリーホールディングス株式会社	サステナビリティ経営推進本部 チーフスペシャリスト	山田 健	
7		公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金	理事長 (株式会社肥後銀行代表取締役会長)	甲斐 隆博	
8	地下水を利用する 企業団体	熊本経済同友会	代表幹事 (株式会社肥後銀行代表取締役頭取)	笠原 慶久	事務局長 荒森 康夫
9	農業団体・水田利用 拡大推進組織	熊本県農業協同組合中央会	会長	宮本 隆幸	
10		公益財団法人 熊本県農業公社	理事 (セブンフーズ(株)代表取締役社長)	前田 佳良子	
11		熊本県経済農業協同組合連合会	会長	丁 道夫	
12	耕畜連携推進団体	熊本県畜産農業協同組合連合会	会長	荒牧 弘幸	業務部長 春日 秀昭
13		熊本県酪農業協同組合連合会	会長	隈部 洋	
14	行政	熊本県市長会	会長 (阿蘇市長)	佐藤 義興	
15		熊本県町村会	会長 (嘉島町長)	荒木 泰臣	
	農業用水管理団体	熊本県土地改良事業団体連合会	会長 (嘉島町長)		

2 学術顧問

	構成	所属	役職名	氏名
1	学術顧問	国立大学法人 熊本大学	名誉教授	嶋田 純
2		公立大学法人 熊本県立大学	教授	松添 直隆
3		学校法人 東海大学	名誉教授	市川 勉

「第 2 期地下水と土を育む農業の推進に関する計画」

令和3年度実績及び令和4年度の活動状況



令和5年（2023年）1月17日

熊本県地下水と土を育む農業推進県民会議

1 第2期計画の目標

(1) 県民理解の深化

(2) 地下水と土を育む農業の充実及び高度化

(3) 地下水と土を育む農業を支える仕組みの強化

2 第2期計画における施策の展開

- | | |
|-------|-------------|
| 基本施策Ⅰ | 県民運動の展開 |
| 基本施策Ⅱ | グリーン農業の推進 |
| 基本施策Ⅲ | 良質な堆肥生産と流通 |
| 基本施策Ⅳ | 水田湛水の推進 |
| 基本施策Ⅴ | 試験研究及び技術の普及 |

アクション

主な取組主体

基本的施策Ⅰ 県民運動の展開

1 県民会議による県民運動の展開	目標指標：県民会議の開催
2 広い世代への理解促進	目標指標：地下水と土を育む農業の学習者数 35,000 人/年
3 販売・購入機会の拡大	目標指標：販売コーナー設置店舗数 200 店舗

	消費者	企業・団体	農業者	J A	市町村	G 委員会	産地	学校等	研究機関
1-① 県民会議における計画進捗管理	○	○	○	○	○	○	○		○
1-② 県民会議メンバーの率先行動	○	○	○	○	○	○	○		○
1-③ 企業、団体等の県民運動への参加	○	○	○	○	○	○	○		○
2-① 地下水と土を育む農業の啓発	○	○	○	○	○	○	○	○	
2-② 未来を担う子ども達の育成		○	○	○	○	○	○	○	
2-③ 効果的な理解促進		○	○	○	○	○	○	○	
3-① 地下水と土を育む農業により生産された農畜産物等販売店舗の拡大		○	○	○	○	○	○		
3-② 認証制度等を活用した運動の展開	○	○	○	○	○	○	○		

基本的施策Ⅱ グリーン農業の推進

1 グリーン農業の生産拡大	目標指標：生産宣言者割合 販売農業者の 70%
2 グリーン農業の高度化	目標指標：土壌分析による適正施肥指導数 13,000 件/年 目標指数：高度なグリーン農業（特別栽培以上）に取り組む生産者宣言者割合 20%
3 グリーン農業の取組み効果の見える化	目標指標：化学肥料・農薬の削減割合 20%削減（平成 29 年度比）

1-① グリーン農業推進委員会によるグリーン農業の拡大		○	○	○	○	○			
1-② グリーン農業生産宣言者数の拡大		○	○	○	○	○			
2-① 土づくりと土壌分析の推進			○	○	○	○	○		○
2-② グリーン農業の取組み高度化を支援			○	○	○	○			
2-③ 有機農業への取組み拡大支援			○	○	○	○			
3-① グリーン農業に取り組む水田や畑における生物多様性の啓発		○			○	○		○	
3-② グリーン農業の生物多様性に対する貢献度を周知		○			○	○			○

基本的施策Ⅲ 良質な堆肥生産と流通

1 良質な堆肥の生産推進	目標指標：たい肥の達人認定者数 30 人
2 堆肥の広域流通の推進	目標指標：堆肥の広域流通量 92,000 t

1-① 畜産農家の良質な堆肥生産に必要な情報の提供			○	○	○		○		
1-② 堆肥共励会の開催等			○	○	○		○		
2-① 堆肥の広域流通促進			○	○	○		○		
2-② グリーン農業産地とのマッチング			○	○	○		○		

基本的施策Ⅳ 水田湛水の推進

1 水稻の作付拡大	目標指標：水稻の作付面積 42,600ha
2 白川中流域における水田湛水の拡大	目標指標：白川中流域水田かん養量 2,100 万 m ³
3 かん養効果の高い地域における水田湛水の拡大	目標指標：台地部等水田かん養量 570 万 m ³

1-① 主食用米の生産振興			○	○	○				
1-② 新規需要米の生産拡大及び生産流通体制整備に対する支援			○	○	○				
2-① 水田への湛水等積極的な地下水かん養		○	○	○	○				
2-② 地下水かん養地域における水田の確保		○	○	○	○				
3-① かん養効果の高い地域における水田への湛水等積極的な地下水かん養		○	○	○	○				

基本的施策Ⅴ 試験研究及び技術の普及

1 地下水と土を育む農業を支える試験研究	目標指標：環境にやさしい農業を進める技術の開発 技術開発数 10 件/年
2 地下水と土を育む農業を支える技術の普及	目標指標：技術展示回数 11 件/年

1-① 環境にやさしい農業を進める技術の試験研究						○			○
1-② 家畜排せつ物の適正処理と利用拡大を支える技術の試験研究									○
1-③ 水田の利用拡大、地下水かん養を支える技術の試験研究									○
1-④ 地下水と土壌のモニタリング及び水田かん養力調査		○							○
1-⑤ 県内大学等と連携した調査研究の実施								○	○
1-⑥ 調査研究成果の発信		○							○
2-① 技術展示実証ほの設置			○	○	○	○			○
2-② 化学肥料低減技術、I P M 技術等の紹介			○	○	○	○			○

3 第2期計画の令和3年度実績及び 令和4年度の活動状況

基本的施策 I 県民運動の展開

(1) 県民会議による県民運動の展開



(2) 広い世代への理解促進



(3) 販売・購入機会の拡大



(1) 県民会議による県民運動の展開

目標指標 県民会議の開催

アクション

- 1 県民会議の開催（書面）による計画進捗管理を実施。
- 2 県民会議メンバーの率先行動による県民運動を展開。

令和3年度実績

幹事会 令和3年11月18日 開催
県民会議 令和4年1月 書面開催

令和4年度活動

幹事会 令和4年9月14日 開催
県民会議 令和5年1月17日 開催



【地下水と土を育む農業推進県民会議 幹事会】

(2) 広い世代への理解促進

目標指標

地下水と土を育む農業の学習者数

基準値(H30)26,500人/年⇒目標(R6)35,000人/年

アクション

- 1 小学3・4年生用副読本「くまもとの地下水のひみつ」の発行による子供たちへ農業の役割や取り組みの寄与を学ぶ機会を増大。
- 2 学習教材用動画を作成し実証授業を実施。

令和3年度実績

27,774人/年

※くまもとグリーン農業
応援宣言者数の拡大



H30:28,785人



R3 : 35,376人
(R2から1,579人増加)



【学習教材実証授業】

令和4年度活動



【学習教材用動画をくまもとグリーン農業ホームページへ掲載】

(3) 販売・購入機会の拡大

目標指標

農畜産物等販売コーナー設置店舗数

基準値 (H30) 150店舗 ⇒ 目標 (R6) 200店舗

アクション

- 1 グリーン農業農産物を使用した弁当を3カ所で開発し、販売。
- 2 店舗及び応援キャンペーンを実施。

令和3年度実績

販売店舗 192店舗



ホテル日航熊本
日本料理「弁慶」



グリーン農業弁当の紹介を
くまにちすぱいすに掲載
(R4年2月11日、3月4日、11日)



You+Youくまもと農産物市場での実施状況

【グリーン農業弁当の開発・販売】 (3カ所)

【店舗キャンペーン】
(5カ所、R3年12月3日～12月9日)

【応援キャンペーン】

期間 R3年10月23日（土）～ 同12月26日（日）

【くまもとグリーン農業紹介記事掲載】

R4年1月28日号 くまにちすぱいす
R4年3月 2日 熊本日日新聞朝刊



地下水と土を育む農業・くまもとグリーン農業の農産物

A賞 えこめ牛・あそび豚セット 30名様
B賞 菊池米10kg (グリーン農業特別栽培対象商品) 60名様
C賞 グリーン農業旬の野菜詰め合わせ (グリーン農業対象商品) 100名様

地下水と土を育む農業・農産物、および、くまもとグリーン農業・農産物に付いているマークを集めて応募すると、抽選で賞品いずれかをプレゼント！

マークは全部で7種類、この中から3枚集めて応募してね！

※ 地下水と土を育む農業とは、地下水の水質や量の保全、地力の増進のため、土づくりとともに化学合成肥料・農薬をできるだけ減らした農業や水田への水張り、飼料用の米づくりなどの取組を行う農業です。

① 地下水と土を育む農産物等
 ② 有機農産物
 ③ 有作くん 100
 ④ 有作くん
 ⑤ 特別栽培農産物
 ⑥ エコファーマー
 ⑦ 環境にやさしい農業

くまもんの美味しい！
うれしい！

「くまもとの美味しい」を当てよう！

くまもんマークのシールを集めて

地下水と土を育む農業
くまもとグリーン農業
応援キャンペーン

◇参加店舗：総数86店舗
 ◇応募者数：4,288通（66.0通／1日）
 ※1日あたりの応募者数でR2比の約1割増



くまもとグリーン農業

安全でおいしい農産物を育みながら熊本の地下水や土を守っています。

熊本県では土づくりを基本として、化学肥料や農薬をできるだけ減らした、環境にやさしい「くまもとグリーン農業」を推進しています。この取り組みを通じて、肥沃な土を育み、熊本の宝である豊かできれいな地下水と自然環境を守ります。

どんな農産物があるの？
 くまもとグリーン農業では県内各地の地域特性に合わせて、たくさんのおいしい農産物が生産されています。その品目は数多く、コメや、トマト、キャベツ、ニンジン、タマネギ、ブロッコリーなどの野菜、柑橘類などの果物などがあります。

どこで買えるの？
 くまもとグリーン農業農産物は県内を中心としたスーパーマーケットや物産館などで販売されています。以下のくまもんの4つ葉のマークが目印です。

くまもとグリーン農業「生産宣言」「応援宣言」

くまもとグリーン農業を広げるために、生産者には「生産宣言」、グリーン農業の役割を理解し、購入したり販売したりすることで応援している消費者には「応援宣言」をしていただくことで、県民運動として進めています。宣言をした人、企業・団体には宣言書が交付されます。生産者だけでなく、消費者のみならず積極的な参加をお願いします。

熊本の地下水との関係
 熊本の地下水の約8割は地下水を汚染しています。くまもとグリーン農業により化学肥料や農薬の使用量を削減するとともに、肥沃な土づくりにより土壌が水を蓄えることにつながります。

生産宣言
 くまもとグリーン農業農産物を生産します！
 くまもとグリーン農業農産物マークを農産物に目印として記入

応援宣言
 くまもとグリーン農業農産物を買って応援します！
 くまもとグリーン農業農産物を使って応援します！
 くまもとグリーン農業農産物マークを使用できます

【農家などの生産者】
 【くまもとグリーン農業農産物】
 【レストランなどの企業や一般消費者の消費者】

くまもとグリーン農業農産物は、この表示マークが目印です！

表示マークは全部で7種類あり、くまもんの熊本のクローバーの緑色が多いほど化学肥料や農薬を減らしてつくられた農産物であることを意味します。

応援宣言者 募集中！
 あなたも応援宣言者になって熊本の農業を応援しませんか？
 くまもとグリーン農業ホームページから宣言できます！
 (7月24日～8月31日)

応援宣言したらピンバッジがもらえる！

くまもとグリーン農業について、詳しくはくまもとグリーン農業

熊本県農林水産部 農業技術課
 TEL 096-333-2383

地下水と土を育む
農畜産物等認証

くまもと
グリーン農業

地下水と土を育む農業 くまもとグリーン農業

応援キャンペーン2022

2022年12月15日(木) ▶ 2023年2月15日(水)

賞品総額 100万円!

参加店舗は
のぼりが
目印!

63円切手を
貼って採面
してください

〒862-0950
熊本市中央区水前寺5-5-12
(株)カラースプランニング内
地下水と土を育む農業
くまもとグリーン農業
応援キャンペーン2022 係

POST CARD

応募する賞品にチェック を入れてください
※応募できる賞品は品切れ次第です

A賞 (マーク10枚)
 えこめ牛&肥後あそび豚セット

B賞 (マーク5枚)
 えこめ牛と野菜の焼肉セット
 肥後あそび豚と野菜のしゃぶしゃぶセット
 熊本県産特別栽培米 (くまもとグリーン農業産物)

C賞 (マーク3枚)
 旬の新鮮野菜&果物詰め合わせ (くまもとグリーン農業産物)

【主催】熊本県 〔協賛〕熊本市 株式会社カラースプランニング
©2019 熊本県くまもと

賞品総額 100万円!

地下水と土を育む農業・畜産物およびくまもとグリーン農業・農畜産物に付いているマークを集めて応募すると、抽選で熊本の農畜産物が当たります!
※賞品写真はイメージです

A賞 マーク10枚で応募!
(20,000円相当) **5名**

えこめ牛&
肥後あそび豚セット

B賞 マーク5枚で応募!
(10,000円相当) **各20名(計60名)**

えこめ牛と野菜の
焼肉セット

肥後あそび豚と野菜の
しゃぶしゃぶセット

熊本県産特別栽培米
(くまもとグリーン農業産物)

C賞 マーク3枚で
応募!
(5,000円相当) **60名**

旬の新鮮野菜&
果物詰め合わせ
(くまもとグリーン農業産物)

購入した商品に付いている以下の「くまもとと四つ葉」のマークを集めて、熊本の農畜産物を当てよう!

このマークを
集めて応募しよう!



応募
方法

Webサイトからの応募

郵送での応募

- 1 下の応募用台紙に、購入した商品に付いているマークを貼る
- 2 マークを貼った応募用台紙をスマートフォンで写真に撮る
- 3 下のQRコードから特設サイトへアクセスし、応募フォームに必要事項を入力し、撮影した画像を添付して送信する

- 1 チラシに付いている応募用台紙を切り取って、購入した商品に付いているマークを貼る
- 2 必要事項を記入し、切手を貼って郵送する

応募や参加店舗情報は
特設サイトへ!



お問い合わせ

地下水と土を育む農業・
くまもとグリーン農業
応援キャンペーン2022事務局
(株式会社カラースプランニング内)

☎ 096-213-1505
(平日10:00~16:00)

応募用台紙

対象となる「くまもとと四つ葉」のマークを
はがれないように
しっかりと貼り付けてください

A賞は10枚、B賞は5枚、C賞は3枚
(重なってもOK!)



基本的施策Ⅱ グリーン農業の推進

(1) グリーン農業の生産拡大



(2) グリーン農業の高度化



(3) グリーン農業の取組み 効果の見える化



(1) グリーン農業の生産拡大

目標指標

グリーン農業生産宣言者割合

基準値(H30)販売農業者の52% ⇒ 目標(R6)70%

アクション

- 1 グリーン農業推進委員会を実施し、グリーン農業推進のため、生産者、事業者及び消費者の連携について検討。
- 2 イベントに出店しグリーン農業取組の周知と生産宣言を推進。

令和3年度実績

66%



【農機自動車大展示会への出展】

令和4年度活動



【グリーン農業推進委員会】
(R4年10月1日)

(2) グリーン農業の高度化

目標指標

- **土壌分析による適正施肥指導数**
基準値(H30)8,380件/年 ⇒ (R6)13,000件/年
- **高度なグリーン農業（特別栽培以上）に取り
組む生産宣言者割合**
基準値(H30)販売農業者の 13.7% ⇒ (R6)20%

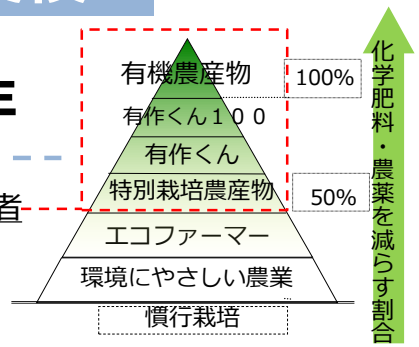
アクション

- 1 事業による土壌診断費の支援及び堆肥散布機等機械及び資材導入を支援。
- 2 若手有機農業者に対するオンラインによる技術サポート体制の実証。

令和3年度実績

土壌分析
7,273件/年

特別栽培以上の生産宣言者
17.5%



令和4年度活動

【土壌分析に基づく適正施肥推進チラシを作成】

土壌分析に基づいた施肥を実施しましょう

- 土壌分析でわかること
- Q1 土壌分析の目的は？
A1 「土壌分析」により、土壌中の成分含量を確認し、肥培管理に活用します。
 - Q2 いつ土壌分析をするの？
A2 理想的には、作物の基肥施用前に実施します。通常は前作物栽培後の跡地土壌を採取し、分析結果は元肥施用の目安にします。
 - Q3 「土壌分析」（主な分析項目）からわかることは？
A3 〇pH : 土壌の酸性、アルカリ性がわかる。酸性矯正の目安。



(3) グリーン農業の取組み効果の見える化

目標指標

化学肥料・農薬の削減割合
基準年（H29年度比）20%削減

アクション

グリーン農業による生物多様性の効果を見る化
するため、子どもの現地勉強会を開催。

令和3年度実績

化学肥料 3.7%増加

化学農薬 4.3%増加

令和4年度活動

こどもの現地勉強会 3月上旬



【こどもの現地勉強会】

基本的施策Ⅲ 良質な堆肥生産と流通

(1) 良質な堆肥の生産推進



(2) 堆肥の広域流通の推進



(1) 良質な堆肥の生産推進

目標指標

たい肥の達人認定者数

基準年 (H30) 26人 ⇒ (R6) 30人

アクション

- 1 畜産農家の良質な堆肥生産に必要な情報を提供
- 2 堆肥共励会の開催によるスキルアップ

令和3年度実績

23人

令和4年度活動

堆肥共励会 出品点数 112点



【堆肥共励会の審査】

(2) 堆肥の広域流通の推進

目標指標

堆肥の広域流通量

基準値 (H30) 74,011 t ⇒ (R6) 92,000 t

アクション

- 1 広域流通に取り組む組織が良質堆肥を生産するための機械の導入を支援
- 2 耕種農家と畜産農家をマッチング

令和3年度実績

77,669 t

令和4年度活動

堆肥舎や堆肥散布機の導入支援



【良質堆肥生産のための攪拌作業】

基本的施策Ⅳ 水田湛水の推進

(1) 水稲の作付拡大



(2) 白川中流域における水田湛水の拡大

(3) かん養効果の高い地域における

水田湛水の拡大



(1) 水稲の作付拡大

目標指標

水稲の作付面積

基準年 (H30) 42,300ha ⇒ (R6) 42,600ha

アクション

- 1 「くまさんの輝き」現地検討会開催等の生産支援による作付意欲の向上
- 2 新規需要米の展示ほ設置、技術指導の実施による生産拡大に向けた機運の醸成

令和3年度実績

41,683ha

令和4年度実績

41,523ha



【現地検討会の開催】



【展示ほの設置】

(2) 白川中流域における水田湛水の拡大

目標指標

白川中流域水田かん養量

基準値 (H30) 1,507万 m^3 \Rightarrow (R6) 2,100万 m^3

アクション

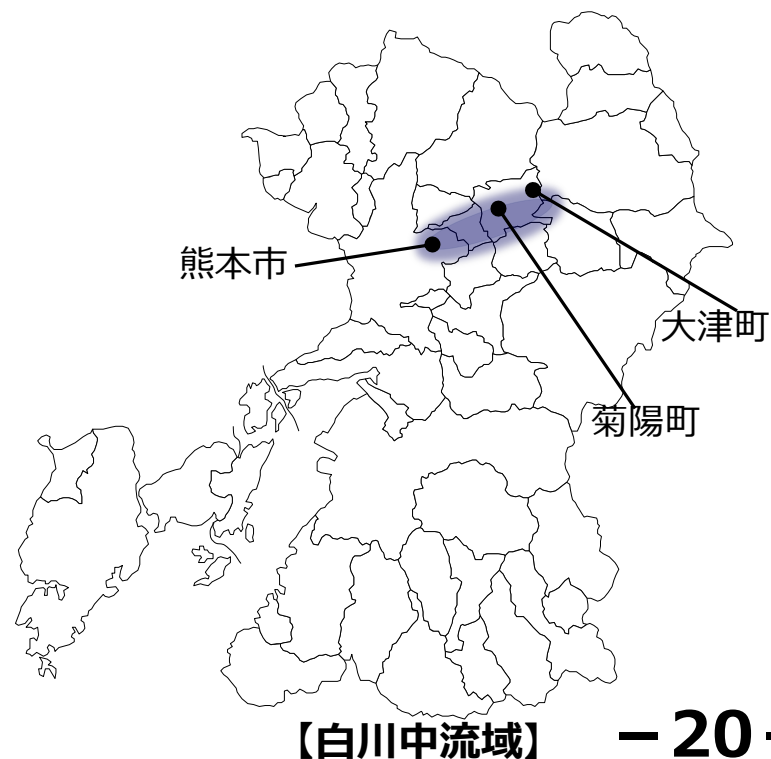
- 1 水田への湛水等積極的な地下水かん養を実施
- 2 地下水かん養地域における水田を確保

令和3年度実績

1,736万 m^3



【白川中流域における水田湛水】



【白川中流域】

(3) かん養効果の高い地域における水田湛水の拡大

目標指標

台地部等水田かん養量

基準年 (H30) 346万m³ ⇒ (R6) 570万m³

アクション

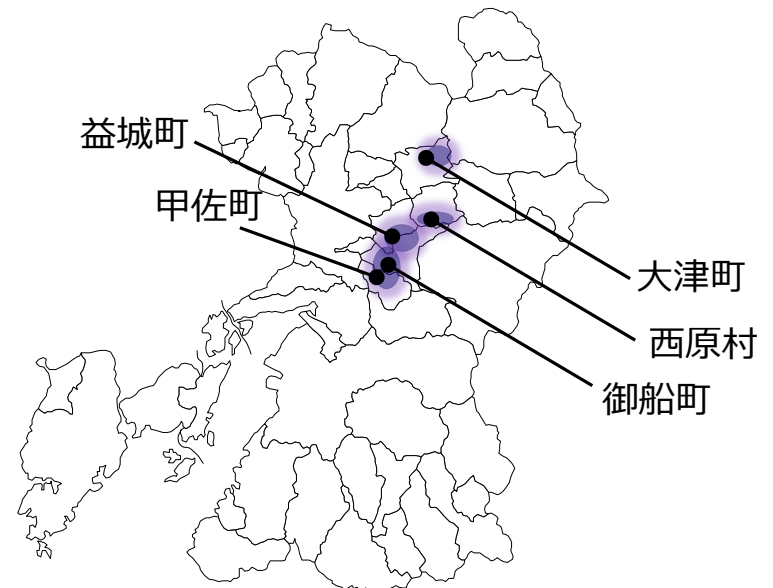
かん養効果の高い地域における水田への湛水等積極的な地下水かん養を推進

令和3年度実績

361.8万m³



【台地部等における水田湛水】



【台地部等水田かん養地域】

基本的施策Ⅴ 試験研究及び技術の普及

(1) 地下水と土を育む農業 を支える試験研究

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



(2) 地下水と土を育む農業技術の普及

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



(1) 地下水と土を育む農業を支える試験研究

目標指標

環境にやさしい農業を進める技術の開発数
基準年（H27～H30平均） 8.3件/年→10件/年

アクション

- 1 環境にやさしい農業を推進する技術の開発を実施。
- 2 畜産における環境負荷軽減技術の試験研究を実施。
- 3 県内大学等と連携した調査研究を実施。
- 4 SNSやホームページを活用した調査研究成果の発信。

令和3年度実績

12件/年

令和4年度活動

農研で、環境にやさしい農業を進める研究を実施。
県内大学と連携した研究を実施中。



【地下水涵養量調査の様子】

(2) 地下水と土を育む農業を支える技術の普及

目標指標

技術展示ほ数

基準値 (H27~30平均) 10.8件/年 → 11件/年

アクション

- 1 環境保全型農業推進モデル展示ほを設置。
- 2 化学肥料低減技術、IPM技術等を紹介。

令和3年度実績

10件



【化学農薬低減技術
展示ほ設置の様子】

令和4年度活動

【環境保全型農業推進モデル展示ほ】

地域	内容
1 熊本	ハウレンソウ フェロモン剤利用【減農薬】
2 熊本	スイカ 天敵資材利用【減農薬】
3 宇城	ミニトマト 天敵資材利用【減農薬】
4 菊池	水稻 プラスチック被覆肥料代替利用【その他】
5 玉名	ナシ 肥効調節型肥料利用【減肥料】
6 鹿本	ホオズキ 天敵資材利用【減農薬】
7 阿蘇	大豆 堆肥施用、無農薬栽培【減肥料】【減農薬】
8 県南	水稻 プラスチック被覆肥料代替利用【その他】
9 芦北	水稻 減肥栽培【減肥料】
10 球磨	ホオズキ 天敵資材利用【減農薬】
11 天草	ミニトマト 物理的防除資材利用【減農薬】

みどりの食料システム戦略の推進

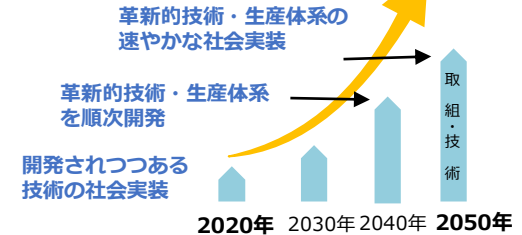
(国) みどりの食料システム戦略 (令和3年5月策定) の概要

国では、持続可能な食料システムの構築に向け、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組みとカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

ゼロエミッション
持続的発展

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 化学農薬の使用量 (リスク換算) を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大 等



(国) みどりの食料システム法※ (令和4年5月2日公布、令和4年7月1日施行) の概要

※ 環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律

農林漁業及び食品産業の持続的な発展等を図るため、環境と調和のとれた食料システムの確立に関する基本理念等を定めるとともに、農林漁業に由来する環境への負荷の低減を図るために行う事業活動等に関する認定制度の創設等の措置を講じる。

(県) 熊本県みどりの食料システム基本計画 (案) (令和5年2月策定予定) の概要 (期間：R4～R6)

「稼げる農林水産業」の最大化とともに「環境にやさしい農林水産業」の高度化を実現し、食料の安全保障に資する『熊本型みどりの食料システム』を確立。

推進方針

「環境にやさしい農林水産業」と「稼げる農林水産業」との両立

計画の柱

- ① くまもとグリーン農業の取組みを県下全域においてさらに推進
- ② 農林水産業でのゼロエミッション化を推進

環境負荷低減に関する目標 (KPI)

- 化学農薬の低減 H29年比 20%低減 (R6)
- 化学肥料の低減 H29年比 20%低減 (R6)
- 施設園芸の加温面積における燃油使用削減に取り組む面積割合 H29 : 50% ⇒ R6 : 90%

